

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801164		
法人名	株式会社 ホームケアサービス		
事業所名	グループホーム 青葉の里		
所在地	〒813-0032 福岡県福岡市東区土井4丁目5番16号	092-691-8263	
自己評価作成日	平成27年07月18日	評価結果確定日	平成27年09月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の方々との交流を大事にしていくために、施設の行事への参加を促したり、近所の行事には積極的に参加するようにしている。入居者様が、日々穏やかに笑顔で過ごして頂けるように努めています。</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成27年09月09日		

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「青葉の里」は、JR土井駅近くの利便性の良い住宅街に位置し、3階建て高齢者複合施設「みんなの家」の2階部分のグループホームである。1階は小規模多機能型施設、3階は住宅型有料老人ホームが併設されている。母体医療法人による往診や、かかりつけ医の受診支援を活用し、併設事業所の看護師の協力体制が整い、利用者の健康管理は、24時間万全である。訪問歯科医の往診指導を受けて口腔ケアに取組み、飲み込みが良く風邪をひかなくなり、身体機能の向上に結びついている。管理者と職員の介護に対する意識は高く、笑顔で優しい対話を大切に、利用者が「ゆったり・楽しく・私らしく」過ごせるケアに努めている。中学生の体験学習や保育園児との交流、ふれあいサロン等へ積極的に参加し、地域密着型事業所として、地域に貢献できるグループホームを目指す「青葉の里」である。</p>
--

### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念「高齢者の視点に立ったチームケアを通じて、日本の高齢社会に貢献します」の中にも「地域社会の一員として生きることを支援します」の一文を置き事業所の理念を「ゆっくり 楽しく 自分らしく」と定め、従業員一同実践に向けて努力している。	法人理念とホーム独自の理念を見やすい場所に掲示し、職員は常に理念を意識し、地域の中で利用者が孤立せずに、「ゆっくり、楽しく、自分らしく」暮らせるように取り組み、地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、利用者本位の介護サービスの提供に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事等へ参加(町内掃除、美化作業)消防訓練にも参加の呼びかけを行っている。地域の中学生の職場体験学習の受け入れも行き、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう交流している。	利用者と職員は、地域の一員として町内の清掃活動に参加し、ホームの夏祭りには、地域住民や家族、ボランティアが参加し、中学生の体験学習や実習生を受け入れ、地域交流が始まっている。また、恒例の保育園児と過ごすひとは、利用者の心が和み、心が開く瞬間でもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し民生委員、老人会、自治会の方々、家族の方とのパイプ役として、地域に貢献できる様働きかけたいと考えている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行う中で、行政・地域の方、ご家族様の参加を通し、行事報告・意見交換・情報交換・質疑応答等を行い、サービス向上に活かしている。	2ヶ月毎に開催する運営推進会議は、家族の参加が多く、自治会や老人会から会長が参加し、充実した会議になっている。ホームの現状や取り組みを報告し、参加委員から、質問や要望が提案され、内容を検討し、ホーム運営に反映されるように取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員に、運営推進会議に参加して頂き、情報交換・相談を行っている。その中で指導を仰ぎながら、質の向上に取り組んでいる。また、包括支援センターからの地域や利用者へのお知らせ等があれば、積極的に協力をしている。	管理者は、行政担当窓口でホームの運営状況や困難事例、事故等について相談し、指導や助言を提供して貰い連携を図っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情を理解した上で、助言や情報を提案して貰いながら協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者はじめ、全ての職員が身体拘束をしないケアの徹底に向けて、全ての事業所が玄関の施錠をしていない。また、定期的に身体拘束廃止に関する外部研修にも参加し、内部研修の実施を通して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する外部の研修会に参加した職員が、内部研修会で報告し、職員全員が、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束が、利用者にも与える影響を理解し、身体拘束をしないさせないを合言葉に、介護サービスを実践している。また、玄関の鍵は日中は施錠せず、利用者が出入り出来る環境を整えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修にて意識を高めると共に、虐待が行われない見過ごされないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部・内部研修にて制度の理解を深めると共に、運営推進会議においても地域包括支援センターの職員から情報提供やお話しをしていただき、必要に応じてそれらを活用出来る様、ご家族に対して説明を行っている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修会に参加し、制度の重要性を理解した上で、資料やパンフレットを用意し、契約時に利用者や家族に説明している。利用者や家族から制度活用の相談があれば、何時でも協力出来る体制を整え、利用者の権利や財産が、不利益を被らないように取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、重要事項説明など、ご家族様の不安がないように、十分説明を行っている。又、疑問点・不安事項については、その都度説明し納得して頂けるように努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議にて、ご家族様へ積極的に声をかけ、要望等の聞き取りを行い反映するように努めている。また、運営に関する自由な意見や苦情をひろえるよう工夫している。	職員は利用者と日々の暮らしの中から、思いや意向を聞き出し、家族面会や行事参加の時に職員が、家族と話し合い利用者の希望や、健康状態、生活の様子を報告し、家族からは、意見や要望、気になる事等を聞き取り、利用者の介護計画やホーム運営に反映させている。また、話す機会の少ない家族には、電話で要望を聞き取っている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的に職員ミーティングを開催し、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は必要に応じて代表者に報告し、意見を反映させている。	職員会議を毎月開催し、管理者は、職員の意見や要望、アイデア等が話しやすい雰囲気をつくり、出勤者のみで開催し、参加していない職員には、議事録を見てもらっている。また、毎日の申し送りを大切に、職員の気付きや、気になる事を話し合い、速やかに解決に向けて取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回賞与支給時に合わせて、職員個々の努力や実績、勤務状況を反映した評価を行いフィードバックを行っている。また管理者は、適宜個人面談を行い、各自が向上心を持って働けるように配慮している。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。又、自己事業所で働く職員についても、自己能力を發揮し、社会参加、自己実現の場として勤務出来る事業所作り、雰囲気づくりに配慮している。	職員更衣室やロッカーを設置し、休憩時間や勤務体制、希望休に配慮し、職員がリフレッシュしながら働ける職場を目指している。管理者は、職員の特長や能力を把握し、役割分担や勤務体制を整え、職員一人ひとりが、生き生きと働ける就労環境に取り組んでいる。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員の外部研修参加を支援し、利用者様に対する言葉遣い、声掛け、傾聴、見守りを厳守していきよう啓発している。	利用者の権利や尊厳を守る介護について職員間で話し合い、利用者が安心して暮らせる介護サービスの提供に取り組んでいる。職員を外部研修に交代で派遣し、言葉遣いや対応に注意し、職員一人ひとりが自覚を持って取り組むように、人権教育、啓発活動を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者を通じて職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保(県、市、GH協議会、事業者協議会含め社内外の研修)に参加出来るように、勤務調整、参加費の支給等、職員のスキルアップ支援を行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム・施設との交流は、GH協議会・研修に参加し、勉強・見学・意見交換等を行って、同業者との交流を通じた向上に取り組んでいる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際しての相談は、そのほとんどが家族から寄せられるものである。性質上、本人自身がどう考えているかは極力、入居前の自宅や病院・施設に向いて面談し、意見や要望を聴けるよう配慮し、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症高齢者を抱える家族は、相当の苦労悩みを抱えている状況にある。初期には、まず、その思い・葛藤を受け止める(傾聴)ことを大事にしている。また将来への不安、疑問解決・相談に応じる等耳を傾けながら信頼関係作りに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何を必要としているのか?専門性をもって緊急性を見極め、必要に応じてアドバイスをし、色々な方向での情報、サービスの利用等選択出来るよう支援している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人が安心して「ここが自分のいる場所」と思えるよう、役割をもって、また生き生きと明るく、その人らしく笑顔で過ごして頂けるように心掛け、暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努力している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでは、家族をお客様とせず、共に本人を支える立場にいて頂くよう協力をお願いしている。たとえば行事では、家族の同行参加を促し、共に大事な時を過ごして頂く工夫を行っている。安心できる配慮と共に家族にも一緒に支えていく関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居したことで、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係がされるのは不本意。ご家族にも協力を願ひ、積極的に外出や面会等を誘導し、可能な限り、馴染みの関係が途切れないように努めている。	利用者の友人、知人の面会が多いので、ゆっくり話が出来るような場所を提供し、何時でも面会が出来るように取り組んでいる。職員は、利用者の希望を聞きながら外出し、利用者が長年築いてきた人間関係や、地域社会との関わりが継続出来るように支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察しながら把握し、一人ひとりが孤立しないよう、対立の際は、間に立ち、利用者同士が相手を思いやり、関わり合い、支え合えるような支援に努めている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去(解約)後にも、困ったことがあれば、遠慮なく相談するよう、声かけをしている。また相談を受けた場合には、必要に応じて、支援出来るように努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を聞きながら、意向の把握に努めている。また、困難な場合には、その都度意向を確認しながら対応している。	職員は、利用者と人間関係を築き、何でも話せる関係の中から、利用者の思いや意向を聞きとっている。意思を伝えることが困難な利用者には、家族と話し合い、職員間で検討し、職員が利用者に寄り添い、話しかけ、利用者の表情や目の動きを察知しながら利用者の思いに近づく努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人及び家族に聞き取りを行いながら把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等、日々観察しながらの現状の把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らせるよう、本人、家族、必要関係者と話し合いを行い、意見やアイデアを反映しながら、現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族と話し合い、意見や要望、気になる事等を聞き取り、担当者会議の中で検討し、利用者にとって最善の方法を採り入れた介護計画を6ヶ月ごとに作成している。家族から「お任せします」と言われても、家族から気になる事や心配な事を聞き取り、介護計画に反映出来るように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化など個別記録に残し、申し送り等で情報を共有し、計画の実践・見直しを行っている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況に合わせて、ご家族様と協力しながら、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様、地域住民(民生委員・老人会・近隣住民)との付き合いを深め、本人の心身の力を発揮しながら、日々の生活を楽しめるような支援を行っている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師が週に2回勤務しており、主治医の月2回の往診。小規模多機能施設の看護師との連携も取れている。また、歯科医、歯科衛生士の訪問も行われている。また近医への受診や急変時の対応等も出来るよう支援をしている。	母体が総合病院であるので、往診体制が整い、非常勤の看護師と併設事業所の看護師が連携し、介護職員の小さなことも見逃さない観察力で、利用者の健康管理は万全である。また、訪問歯科による口腔ケアに力を入れ、食事がスムーズに食べられる支援に取り組み、利用者の生きる力に繋げている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の関わりの中で情報や気づきを看護師へ報告している。看護師は、状態に応じて主治医へ報告相談を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での状況がわかる添書を渡している。入院した際には、認知症進行防止のため、可能な限り早期に退院出来るよう相談している。また、情報交換等を行い病院関係者との関係作りを行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、終末期が近いと考えられる利用者・ご家族様には、終末期に向けての説明を行い、意向を確認し、看取りを希望された場合は、主治医を含め協力関係機関と連携しながら対応している。	契約時に、ターミナルケアについて利用者や家族に説明し、ホームで出来る支援と医療機関で出来る支援について説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に合わせ、段階的に家族や主治医と話し合い、今後の介護方針を確認し、職員全員で方針を共有し、利用者が安心して終末期を過ごせる介護に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に対応出来るよう、定期的に勉強会や訓練等を行っている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回家族や地域住民、全職員が昼夜を想定した避難訓練を実施し、対応できるよう努めている。災害時には、協力体制が取れるようにしている。	消防署の協力を得て年2回、地域住民や家族が参加して、昼夜を想定した避難訓練を実施し、3階建てビルの2階にあるので、一時避難場所を確保し、消防署の救出を待つ体制を整えている。また、併設事業所職員と日常的に緊急時の協力体制を話し合い、非常時に備えている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。又スタッフ同志、不適切な言葉づかいがあった際には、注意し合える雰囲気づくりに努めている。	職員は、利用者の尊厳と権利を守る介護のあり方を研修し、人前であからさまな介護や大きな声掛けを行わないように注意し、トイレ誘導や入浴時には、利用者のプライドや羞恥心に配慮したケアに取り組んでいる。また、利用者の個人情報の記録は鍵をかけて保管し、職員の守秘義務の徹底も日常的に行われている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により、希望の表出や自己決定も困難な時はあるが、可能な限り本人の思いや希望を傾聴し、自己決定出来るような支援を行っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様は高齢の為、一人ひとりのペースを大切にし、本人の希望に添った暮らしを支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の好みを聞き、理美容等も利用しながらおしゃれが出来るような支援をしている。特に外出レクの際は、おしゃれを楽しむ支援も注力し、喜んでいただいている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合った食事形態での配食を利用しており、季節に応じた献立となっている。毎月、食レクや誕生日会では、利用者様の意見を聞きながら、出来るところは一緒に作っている。	配食サービスを利用し、彩りや盛り付けに工夫し、利用者の状態に合わせ、形状やカロリーに注意して料理を提供している。利用者の嗜好を聴きながら、利用者職員と一緒に食事作りを行い、楽しい雰囲気の中で、一緒に食べて利用者の食欲増進に繋げている。また、外食に出掛け、利用者の気分転換に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に応じて主治医と相談しながら対応している。嚥下の状態に合わせて食事形態を調整し、摂取しやすいように努めている。食事・水分量を確認しながら、対応している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後に清潔保持と誤嚥予防のため、口腔ケアを行っている。介助が必要な方には支援をしている。夜間、義歯洗浄を実施。歯科による居宅療養管理指導も利用している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に対しての意識を高めて頂く為、必要に応じてリハビリパンツやパットを使用し、声かけしながらトイレで排泄出来るよう支援を行っている。	認知症が進んでもトイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者の排泄パターンを把握し、利用者の仕草や様子を察知して早めの声掛けを行い、トイレでの自立に向けた排泄の支援に取り組んでいる。また、リハビリの中で下肢筋力を鍛え、トイレで排泄出来る取り組みを行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人様に確認しながら、排泄チェック表で確認している。牛乳やヨーグルトを飲んで頂いたり、腹部マッサージを行うなど、薬だけに頼らない便秘予防に取り組んでいる。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度化に伴い、職員2名で行うなど一人ひとりに合わせた対応を行っている。また、季節に合ったゆず湯や入浴剤等を使用しながら、楽しめる入浴になるように支援している。	利用者の重度化が進み、安全のために職員2人体制で入浴介助を行い、香りの良い入浴剤や、柚子湯を提供し、ゆっくりと入浴を楽しんでもらっている。入浴拒否の利用者はいないので、入浴の時間は、利用者職員がゆっくり話が出来ると捉え、思いや意向を聞き取っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の希望や体調に合わせて、休養して頂いている。一人ひとりの生活習慣に合わせ、午睡も取り入れ安心して気持ちよく眠れるよう支援を行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容を理解し、服薬の支援を行っている。処方薬が変更になったりした場合には看護師により情報の共有を図り症状の変化の確認を行い主治医、看護師に報告している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や興味を活かして出来る事、楽しんで頂ける家事の手伝いを工夫している。又月に一度調理レクを開催し能力に合わせた準備を考え提供している。エプロン、バンダナの着用で雰囲気作りも大切にしている。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、季節の花を見に出かけたり山笠などの見学を行うなど、季節毎の行事を取り入れたり、食事に行ったりしている。日常的なその日の希望に沿った外出支援までは困難だが、近所へ気分転換に散歩に行くなど家族や地域の方の協力を仰ぎながら支援している。	天気の良い日は、ホーム周辺の散歩や畑の手入れや収穫を行い、季節を五感で感じとり、気分転換に繋がるように取り組んでいる。花見や外食、祭り見物、ドライブ等を毎月計画し、利用者の生き甲斐に繋げている。また、家族の協力を得て、外食や買い物に出掛けて貰い、利用者の生きる力を引き出している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症であっても、本人がお金を持つことの大切さを理解しているが、物とられ妄想等のトラブルが頻繁であり、もめることが続いたため、現在は金銭管理に関してはご家族に協力をお願いしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様より希望があった場合には、いつでも電話でお話しが出来るように支援している。また年賀状は毎年工夫をこらし取り組んでいる。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所には、季節感を出した花を飾ったり、折り紙で作成した飾り付けを行う等、居心地の良い空間になるよう工夫している。入浴は入浴剤を使用したり好みの湯温を把握しリラックスして頂いている。	リビングルームでは、利用者と職員の手作りの作品が季節毎に掲示され、生花を飾り、仲の良い利用者同士が談笑し、歌や踊り、体操を採り入れ、充実した一日を過ごせる共用空間である。建物内は全館バリアフリーを設置し、音や照明、温度や湿度、換気に注意し、利用者が快適に過ごせるように支援している。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは、居間と食堂のゆるやかな分離を行い、居場所を選べる工夫をしている。又、居間では仲の良い方同士でソファに座りおしゃべりをしたり、手作業がお好きな方は専用のテーブルスペースを確保したりしている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具等を持ってきていただいたり、家族や本人様の写真を飾ったりしながら、居心地良く過ごせるように工夫している。	利用者が長年使い慣れたお気に入りの家具や、生活用品を出来るだけ沢山持ち込んでもらい、自宅で暮らすような雰囲気の中で、利用者が安心して、穏やかな暮らしが出来るように取り組み、清潔で、明るい、居心地の良い共用空間である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や共用部分に手すりを設置し、危険因子は取り除き、現有能力を活かしながら、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		